

ARTIFACT SHEET

Enter artifact number below. Artifact number is application number + artifact type code (see list below) + sequential letter (A, B, C ...). The first artifact folder for an artifact type receives the letter A, the second B, etc.. Examples: 59123456PA, 59123456PB, 59123456ZA, 59123456ZB

Indicate quantity of a single type of artifact received but not scanned. Create individual artifact folder/box and artifact number for each Artifact Type.

CD(s) containing:

computer program listing

Doc Code: Computer

Artifact Type Code: P

pages of specification

and/or sequence listing

and/or table

Doc Code: Artifact

Artifact Type Code: S

content unspecified or combined

Doc Code: Artifact

Artifact Type Code: U

Stapled Set(s) Color Documents or B/W Photographs

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: C

Microfilm(s)

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: F

Video tape(s)

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: V

Model(s)

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: M

Bound Document(s)

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: B

Confidential Information Disclosure Statement or Other Documents marked Proprietary, Trade Secrets, Subject to Protective Order, Material Submitted under MPEP 724.02, etc.

Doc Code: Artifact Artifact Type Code X

Other, description:

Doc Code: Artifact Artifact Type Code: Z

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55-33448

⑬ Int. Cl.³
A 61 K 7/00

識別記号

厅内整理番号
7432-4C

⑭ 公開 昭和55年(1980)3月8日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 9 頁)

⑮ 改良されたW/O型クリーム

⑯ 特 願 昭53-106740

⑰ 出 願 昭53(1978)8月31日

⑱ 発明者 栗山昭二郎

⑲ 出願人 小田原市寿町5丁目16番5号
鐘紡株式会社
東京都墨田区墨田5丁目17番4号
⑳ 代理人 弁理士 足立英一

明細書

1. 発明の名称

改良されたW/O型クリーム

2. 特許請求の範囲

(1) 乳化剤として、ポリオキシアルキレンアルカノールアミドとポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤を含有しており、そして含水量が5.5~9.0重量%で、含有油分量が6~40重量%であることを特徴とする改良されたW/O型クリーム。

(2) 含有水分量が、5.7~8.0重量%である特許請求の範囲第(1)項記載のW/O型クリーム。

(3) ポリオキシアルキレンアルカノールアミドが、
ポリオキシエチレン脂肪酸モノエタノールアミド、
(オキシ)
ポリプロピレン脂肪酸モノエタノールアミド、
ポリオキシエチレン-ポリオキシプロピレン脂肪酸
モノエタノールアミド、ポリオキシエチレン脂肪
酸モノイソプロパノールアミド、
(ポリオキシエチレン-ポリオキシプロピレン脂肪酸モノイソプロパノールアミド)、
ポリプロピレン脂肪酸モノイソプロパノールアミド、
ポリオキシエチレン脂肪酸エタノールアミド、
ポリ

オキシプロピレン脂肪酸エタノールアミド、
ポリオキシエチレン-ポリオキシプロピレン-
エタノールアミド、ポリオキシエチレン脂肪酸ジ
イソプロパノールアミド、ポリオキシプロピレン
脂肪酸ジイソプロパノールアミド、
ポリオキシエチレン-ポリオキシプロピレン脂肪酸ジイソプロ
パノールアミドからなる群から選択された化粧品
の少なくとも一つである特許請求の範囲第(1)項記
載のW/O型クリーム。

(4) ポリオキシアルキレンアルカノールアミドが、
0.2~3重量%含有されている特許請求の範囲第
(1)項記載のW/O型クリーム。

(5) ポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活
性剤が、ソルビトール、ソルビタン、グリセリン、
ジグリセリン、マンニトール、ベンタエリスリト
ール、プロピレングリコール又はジプロピレングリ
コールと、アルキル基又はアルケニル基の炭素数
が11~22の脂肪酸とからなるエステル酸いは
それらの組合せである特許請求の範囲第(1)項記載

のW/O型クリーム。

(6) ポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤が、1~7重量%含有されている特許請求の範囲第(1)項記載のW/O型クリーム。

(7) 油分が、10~57重量%含有されている特許請求の範囲第(1)項記載のW/O型クリーム。

(8) 油分が、液状又はペースト状の炭化水素、直鎖構造の脂肪酸エステル油、分枝構造の脂肪酸エステル油、ワックス類、植物油、動物油、植物油本添物、動物油本添物或いはそれらの組合せである
(記載) 特許請求の範囲第(1)項のW/O型クリーム。

25特

5. 発明の詳細な説明

本発明は、含有水分量が多く、保存安定性、保湿性、肌なじみ、感触等の良好なW/O型(油中水滴型)のクリームに関する。

従来、クリームのベースとしては、一般にW/O型エマルジョンの方がO/W型(水中油滴型)エマルジョンよりも皮膚の保護や柔軟性の維持等の多くの点で優れていることがよく知られている。しかしながらW/O型エマルジョンは品質の安定

性等にいくつかの問題点があり、その安定性を向上するために油分(油性物質)の量を増したり、粘度を高める等の方法で安定性を改良しているが、その結果クリームが必要以上にべたつき易い曲っぽい等の欠点が現われ消費者にきらわれることがある。またべたつきや曲っぽさを改良するために多量(40~50重量%)の水分を配合する方法も研究されているが、長期保存すると、O/W型に転相したり、水分が分離する等安定性がわるく外観を損う等の問題があり、未だ満足すべき方法が見出されていない。

本発明者は、かかる現状に鑑み、試験研究した結果、乳化剤として脂肪酸アルカノールアミドと
(ポリオキシアルキレン)_nを併用する場合は、水分を多量(55~92重量%)配合しても保存安定性の優れた均一なW/O型クリームが容易に得られることを見出し本発明を完成した。

本発明の目的は、含有水分量が多く、保存安定性、均一性に優れ、皮膚に対して無刺激性でかつ

良好な感触、保湿効果、親和性、荒れ止め効果を与えるW/O型クリームを提供することにある。すなわち、本発明は乳化剤としてポリオキシアルキレンアルカノールアミドとポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤を含有しており、そして含有水分量が55~92重量%で、含有油分量が6~40重量%であることを特徴とするW/O型クリームである。

本発明のW/O型クリームに使用(含有)されるポリオキシアルキレンアルカノールアミドとしては、
例えは下記の各一般式で示される各化合物が好ましく、それらの単独又は二種以上の組合せて適量される。

(1) $RCO\text{NHCH}_2\text{CH}_2\text{O}-(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_m\text{H}$

ポリオキシアルキレン脂肪酸モノエタノールアミド

(2) $RCO\text{NHCH}_2\text{CH}_2\text{O}-(\text{CH}_2\text{CHO})_m\text{H}$

ポリオキシプロピレン脂肪酸モノエタノールアミド

(3) $RCO\text{NHCH}_2\text{CH}_2\text{O}-(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_m-(\text{CH}_2\text{CHO})_n\text{H}$

ポリオキシチレン-ポリオキシプロピレン脂肪酸モノエタノールアミド

(4) $RCO\text{NHCH}_2\overset{\text{CH}_3}{\text{CH}}-\text{O}-(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_m\text{HCH}_3$
ポリオキシチレン脂肪酸モノイソプロパノールアミド

(5) $RCO\text{NHCH}_2\overset{\text{CH}_3}{\text{CH}}-\text{O}-(\text{CH}_2\text{CHO})_m\text{HCH}_3$
ポリオキシプロピレン脂肪酸モノイソプロパノールアミド

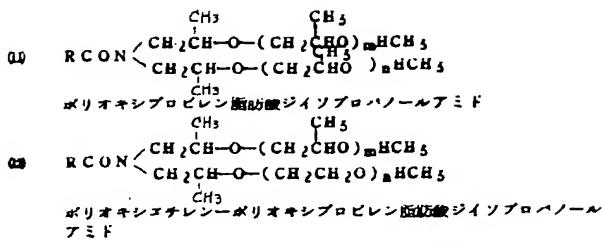
(6) $RCO\text{NHCH}_2\overset{\text{CH}_3}{\text{CH}}-\text{O}-(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_m-(\text{CH}_2\text{CHO})_n\text{HCH}_3$
ポリオキシチレン-ポリオキシプロピレン脂肪酸モノイソプロパノールアミド

(7) $RCO\text{N}(\overset{\text{CH}_3}{\text{CH}}\text{CH}_2\text{O})-\text{O}-(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_m\text{H}$
ポリオキシチレン脂肪酸ジエタノールアミド

(8) $RCO\text{N}(\overset{\text{CH}_3}{\text{CH}}\text{CH}_2\text{O})-\text{O}-(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_m\text{H}$
ポリオキシチレン脂肪酸ジエタノールアミド

(9) $RCO\text{N}(\overset{\text{CH}_3}{\text{CH}}\text{CH}_2\text{O})-\text{O}-(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_m\text{H}$
ポリオキシチレン-ポリオキシプロピレン脂肪酸ジエタノールアミド

(10) $RCO\text{N}(\overset{\text{CH}_3}{\text{CH}}\text{CH}_2\text{O})-\text{O}-(\text{CH}_2\text{CH}_2\text{O})_m\text{HCH}_3$
ポリオキシチレン-ジイソプロパノールアミド



(但し上記の各一般式中で m は炭素数 6 ~ 22 のアルキル基又はアルケニル基で、 n は 2 ~ 10 の整数、 l は 2 ~ 10 の整数である。) ポリオキアルキレンアルカノールアミドは一種以上又は二種以上組合せて使用され、その使用量(含有量)は組成物重量に対し 0.2 ~ 5 重量%、好ましくは 0.5 ~ 2.5 重量%である。0.2 重量%よりも少ないと組成物の保存安定性が低下する傾向があり、5 重量%よりも多くなると組成物の保存安定性が極く皮膚に対する刺激性があり、感覚も悪くなき易い。

ポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤としては、ソルビトール、ソルビタン、グリセリ

ン、ジグリセリン、マンニトール、ベンタエリスリトール、プロピレングリコール、またはジプロピレングリコールと、アルキル基またはアルケニル基の炭素数が 11 ~ 22 の脂肪酸とからなるエステルが好ましく、例えばモノオレイン酸ソルビトール、モノオレイン酸ソルビタン、モノオレイン酸グリセリン、モノオレイン酸ジグリセリン、モノオレイン酸マンニトール、モノオレイン酸ベンタエリスリトール、モノオレイン酸プロピレングリコール、モノオレイン酸ジプロピレングリコール、ジオレイン酸ソルビタン、ジオレイン酸ソルビトール、ジオレイン酸グリセリン、ジオレイン酸ジグリセリン、ジオレイン酸マンニトール、ジオレイン酸ベンタエリスリトール、ジオレイン酸プロピレングリコール、ジオレイン酸ジプロピレングリコール、トリオレイン酸ソルビトール、トリオレイン酸ジグリセリン、トリオレイン酸マンニトール、モノステアリン酸ソルビトール、モノステアリン酸ソルビタン、モノステアリン酸グリセリン、モノステ

アリン酸ジグリセリン、モノステアリン酸マンニトール、モノステアリン酸プロピレングリコール、モノステアリン酸ジプロピレングリコール、ジステアリン酸ソルビトール、ジステアリン酸ソルビタン、ジステアリン酸ジグリセリン、ジステアリン酸マンニトール等を挙げることができる。

ポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤は一種又は二種以上組合せて使用され、その使用量(含有量)は、組成物重量に対して 1 ~ 7 重量%好ましくは 2 ~ 5 重量%である。

1 重量%よりも少ないと組成物の保存安定性がわるくなりやすく、7 重量%よりも多くなると保存安定性及びクリームの肌目(均一性)がわるくなりやすい。

本の含有量は、組成物重量に対して 5.5 ~ 9.0 重量%好ましくは 5.7 ~ 8.0 重量%である。5.5 重量%より少くなると油性状の強い製品になり易く、また 9.0 重量%より多くなると組成物の安定性が悪くなる。

本発明に使用する油分(油性物質)はクリーム

に使用される油性物質であって、例えば液状又はペースト状の炭化水素、直鎖構造の脂肪酸エステル油、分岐構造の脂肪酸エステル油、ワックス類、植物油、動物油、植物油水添物、動物油水添物等を挙げることができる。

液状またはペースト状の脂肪族炭化水素とは、常温下で液状またはペースト状を呈しかつ化粧料の添加成分として公知の脂肪族炭化水素であって、例えば流動パラフィン、スクワラン、ブリスタン、ポリイソブレンの本邦添加物炭素数 5 ~ 11 のノーオレフィンのオリゴマーまたはその水素添加物等が好ましいものとして例示される。更に具体的なものとして流動パラフィン(軽油、中油、重油)、スクワラン、合成スクワラン、ブリスタン、オクテーン-1 の重合物(油)、ドデセーン-1 の重合物(油) 2, 6, 15, 19, 25-ヘキサメチルテトラコサン、液状ポリイソブチレン液状ポリイソブテン、ペトロラーツム、ワセリン等を例示することができる。

また直鎖構造の脂肪酸エステル油としては、例え

はブチルステアレート、ヘキシルラクレート、ブチルパルミテート、ブチルミリステート、ヘキシルステアレート、ヘキシルパルミテート、ヘキシルミリステート、ブチルオレート、ヘキシルオレート、ヘキサデシルアジペートを挙げることができる。

本発明に使用する分枝鎖構造を有する脂肪酸エステル油とは、脂肪酸残基または／およびアルコール残基のアルキル基あるいはアルケニル基が分枝構造を有する公知の脂肪酸エステル油であって、例えばイソプロピルイソステアレート、イソプロピルヨーステアレート、モノ-2-エチルヘキシルサクシート、ジ-2-ヘキシルデシルセバケート、ジ-オクチルドデシルセバケート、ジイソステアリルサクシート、ジ-2-エチルヘキシルサクシート、イソプロピルミリステート、イソプロピルパルミテート、2-ヘキシルデシルパルミテート、イソノニルイソノネット、ジ-2-ヘキシルデシルパルミテート、イソノニルイソノネット、

イソデシルイソノネット、イソトリデシルノネット、ジイソプロピルアジペート、ジ-2-エチルヘキシルアジペート、ジイソプロピルセバケート、2-エチルヘキシルパルミテート、オクチルドデシルミリステート、2-ヘキシルデシルイソステアレート、2-オクチルドデシルイソステアレート、ジーステアリルマレート、ジイソステアリルタートレート、イソミリスチルイソミリステート、2-ヘキシルネオデカノエート、イソステアリル2-エチルヘキシルヘキサネット、2-オクチルドデシル2-エチルヘキサネット、イソプロピルイソステアレート、イソブチルイソパルミテート、イソブチルイソステアレート、イソブチルイソエイコサネット、オクチルドデシルミリステート、あるいはそれらの組合せが好ましいものとして例示される。その他、バーセリンソリッド、カルナウバワックス、酸ロウ等を使用することができる。

前記の油性物質は一種又は二種以上組合せて使用され、その使用量（含有量）は、組成物重量に対して、6～40重量%，好ましくは10～37

重量%である。6重量%よりも少なくなると親油性クリームとしての機能がなくなり、親水性のクリームとなり易く、保有安定性の低下や転相を起し易くなる場合があり、また40重量%よりも多くなると、保存安定性、肌なじみ（親和性）が低下したり、油性感が強過ぎ、しつとり感がなくなり易い。

本発明のW/O型クリームは、所要量のアルキロールアミドとポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤と油性物質とからなる均一混合物の85～95℃熱離液に、水85℃～90℃を攪拌下に混合し、香料、防腐剤を入れ室温まで冷却攪拌することによって製造される。

本発明は、乳化剤として含有する脂肪酸アルカノールアミドとポリオール脂肪酸エステル型非イオン界面活性剤の併用による相乗的作用効果によって多量（55～92重量%）の水分を安定に含有せしめると共に保存安定性、均質性の優れたW/O型クリームを形成することができる。このW/O型クリームは水分を多量含有しているにも

拘らず、長期（約2年間）保存しても油が漏出したり（しみ出たり）、転相して水分が分離することなく極めて安定で、肌目細かく乳白美麗な外観とW/O型の乳化系（電気伝導度は0）を保持し、しかも皮膚に対して無刺激性で良好な感触（しつとり感を与へべと付き感覚バナバナした感触を与えない等）保湿効果、親和性、荒れ止め効果柔軟性、なめらかさを付与で得る商品価値の極めて高いものである。

以下本発明の実施例を説明する。尚実施例で部とは重量部、%とは重量%を意味する。

実施例1

(1) 本発明のW/O型クリームの組成

1.ポリオキシエチレンラクリン酸ジエタノールアミド(380)	(純分)	1.0部
2.流動パラフィン(セイボルト70)	(純分)	1.5部
3.密ロウ	(純分)	1.0部
4.セスキオレイン酸ソルビタン	(純分)	1.5部
5.ブチルパラベン		0.3部
6.香料		0.1部
7.水		70.6部

(2) 本発明の販／0型クリームの製造

ボリオキエチレンラクリン酸ジエタノールアミドと流動パラブイン、密ログとセスキオレイン酸ソルビタンと防腐剤とを加え85℃～90℃に均一融解液液化、水85℃～90℃を徐々に搅拌しながら加えて乳化し、室温まで冷却する。その後香料を搅拌しながら混合する。

夾底例 2

(1) ポリオキシプロピレンオレイン酸モノエタノールアミド(2E0)	(純分)	0.4 部
(2) ポリイソブテン	(純分)	2.0 部
(3) 密ロウ	(純分)	8 部
(4) モノオレイン酸マンニトール		3.6 部
(5) プチルパラベン		0.1 部
(6) 香料		0.1 部
(7) 水		67.8 部

実施例1の製造方法に準じてW/O型クリームを得た。

实施例 5

(1) ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンミリストン酸イソプロパノールアミド
(4BO)(純分) 0.6 部

(8) 比較例4として、セスキオレイン酸ソルビタンの一部をステアリン酸アルミニウム塩を1部を置きかえる他は、本発明実施例1と同様に行なった。

次に本発明例と、比較例の各クリームの保存安定性、外観、官能試験（しっとり感、保湿効果、肌なじみ、荒れ止め効果）についてしらべた。それらの結果を第1表に示した。尚、第1表中の外観は肉眼観察、保存安定性は-10℃で2週間、-15℃で2週間のサイクルで6ヶ月間恒温室に保存した時の状態が粒がしみでたり、水が分りたり、顔料がわいたりした場合不安定、色も匂いも変化せず均一な仕上様のクリームの状態を安定とした。官能試験は35才～45才の女性20名をパネルとして行ない数字は良いと答えた人数である。

以下余白

(2) プチルステアレート	(純分)	1.7部
(3) 鉛 ロ ウ	(純分)	4部
(4) 銀 ロ ウ	(純分)	6部
(5) モノオレイン酸ジグリセリン(純分)		4部
(6) プチルバラベン (純分)		0.1部
(7) 香 料		0.1部
(8) 水		6 & 2部

実施例1の製造法に準じて貞ノ0型クリームを
得た。

比較例 1 ~ 比較例 4

- (1) 比較例 1 として、ポリオキシエチレンラクリン酸ジエタノールアミドの代りに、ポリオキシエチレンラクリルエーテル(580)を使用する他は、本発明実施例 1 と同様に行なった。
- (2) 比較例 2 としては、ポリオキシエチレンラクリン酸ジエタノールアミドを使用しない他は、本発明実施例 1 と同様に行なった。
- (3) 比較例 3 として、セスキオレイン酸ソルビタンを使用しない他は、本発明実施例 1 と同様に行なった。

(注) 脂肪鏡テスト

オリエンパス脂肪鏡で倍率400倍に於て各試料を観察し均一とあるのは粒子がきれいで重つており、不均一とあるのは粒子が盛つてない状態を示す。

染着法

各試料を約1分時計盤上に取り、オリーブ油に11%スダン黒(赤色225号)をとかしての油液1滴を試料へ接近させて滴すとき赤色が試料へそまってきれいに染るときを染色、やゝ赤がり染るときを半染色、全然赤がらない状態を無染とした。

状態

W/O: 脂油状態を示す。

O/W: 水油状態を示す。

この結果から明らかのように、本発明の実施例1, 2, 3のクリームは、比較例の成組成物に比較して親油性、保存安定性、官能性が著しく優れています。そして本発明の構成成分の代りに、親水性成分を混用しても良好なW/O型クリームが得られ

ない。

特開昭55-33448(6)

実施例4

ボリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミド(380)の含有量を第2表の如く変化させた他は、本発明実施例1と同様に行なった。その結果を第2表に示した。

第2表

ボリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの含有量%	保存安定性 (6ヶ月後)	脂肪鏡テスト	色素法
0	不安定	不均一	無染
0.1	+	+	+
0.2	安定	均一	微染
0.3	+	+	赤染
0.4	+	+	+
0.5	+	+	+
1	+	+	+
1.5	+	+	+
2	+	+	+
2.5	+	+	+
3	+	+	微染
3.5	不安定	不均一	無染

次に第3表として官能試験の結果を示す。

第3表

ボリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの含有量%	肌なじみ	ネバネバしない	保潤効果
0	0	0	0
0.2	11	12	14
0.4	18	18	19
0.6	19	18	19
1	20	19	19
2	18	18	17
2.5	17	16	15
3	15	14	15
3.5	0	0	2

この第2表、第3表の結果から明らかのようにボリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの含有量は0.2~3%、好ましくは0.3~2.5%である。

実施例5

セスキオレイン酸ソルビタンの含有量を第4表の如く変化させかつ全量が100部になるように

本量で調整する他は、実施例1の本発明と同様に行なった。

第4表

セスキオレイン酸ソルビタンエステルの含有量%	保存安定性 (6ヶ月)	脂肪鏡 テスト	色素法
0	不安定	不均一	無染
1	安定	均一	微染
2	+	均一	赤染
3	+	+	+
4	+	+	+
5	+	+	+
6	+	+	+
7	+	+	+
8	不安定	不均一	無染

この結果から明らかのようにセスキオレイン酸ソルビタンエステルの含有量は1~7%、好ましくは2~5%である。

実施例6

油性物質(運動パラフィンと樹脂の重量混合

比1.5倍の混合物)の含有量を第5表の如く変化し、かつその全量が100%になるように水槽で調整する値は実施例1と同様に行なつた。その結果を第5表に示した。

(以下余白)

第5表

油性物質 (油性パラフィン、密ロク) 含有量%	保存安定性 (6ヶ月後) テスト	調合法	乳化性 及ばじみ 及い人	結果	結果	
					均一 混 容	不均一 混 容
4	不安定	不均一	均一	3	0	0
6	安定	均一	均一	1.5	1.4	1.1
8	安定	均一	均一	1.7	1.5	4.7
10	安定	均一	均一	1.7	1.9	1.6
15	安定	均一	均一	1.6	1.6	1.6
20	安定	均一	均一	1.6	1.6	1.6
25	安定	均一	均一	2.0	1.9	1.9
30	安定	均一	均一	1.9	1.6	1.6
35	安定	均一	均一	1.9	1.7	1.7
40	安定	均一	均一	1.4	1.2	1.4
45	不安定	不均一	混 容	3	2	0

この結果から明らかなように、油性物質(流動パラフィン密ロク)の含有量が6~10%程度までは10~37%である。

実施例7

セスキオレイン酸ソルビタンの代りに、モノオレイン酸ソルビトール、モノオレイン酸ソルビタン、モノオレイン酸グリセリン、モノオレイン酸ジグリセリン、モノオレイン酸マンニトール、モノオレイン酸ベンタエチルスリトール、モノオレイン酸プロビレングリコール、モノオレイン酸ジプロビレングリコール、ジオレイン酸ソルビタン、ジオレイン酸ソルビトール、ジオレイン酸グリセリン、ジオレイン酸ジグリセリン、ジオレイン酸マンニトール、ジオレイン酸ベンタエチルスリトール、ジオレイン酸プロビレングリコール、トリオレイン酸ソルビトール、トリオレイン酸ソルビタン、トリオレイン酸ジグリセリン、トリオレイン酸マンニトール、モノステアリン酸ソルビトール、モノステアリン酸ソルビタン、モノステアリン酸グリセ

リン、モノステアリン酸マンニトール、モノステアリン酸プロビレングリコール、モノステアリン酸ジプロビレングリコール、ジステアリン酸ソルビトール、ジステアリン酸ソルビタン、ジステアリン酸ジグリセリン、ジステアリン酸マンニトールを使用する値は実施例1と同様に行なつた。その結果、得られた何れのクリームも実施例1クリームと同様に、均一な油中水滴型エマルジョンを形成しており、6ヶ月後も安定で、異常が見られなかつた。また官能テストの結果も良好であつた。

実施例8

ボリオキシメチレンラクタリン酸ジェタノールアミド(520)の代りにボリオキシエチレンの直合度を第6表の如く変化させる値は、実施例1の本発明と同様に行なつた。

(以下余白)

実施例 1 と同様に行なった。

得られた各クリームの結果を第 7 表に示した。

第 6 表

ポリオキシエチレンの重合度 R.O.	外観	保存安定性	調査箇	色素法	状態
		6カ月後	テスト		
0	白色	安定	均一	無染	W/O
2	・	・	・	・	・
4	・	・	・	・	・
6	・	・	・	・	・
8	・	・	・	・	・
10	・	・	・	・	・
12	黄色	不安定	不均一	無染	W/O

この結果から明らかなよう、ポリオキシエチレンアルカノールアミドにおけるオキシエチレン鎖 $[(CH_2CH_2O)_n]$ の n は 10 以下が好ましい。

実施例 9

流动パラフィン 15 部、密ロタ 10 部、水 70.8 部、セスキオレイン酸ソルビタン 5 部の代りに、水、流动パラフィンと密ロタの混合物（重量混合比 1.5 対 1）及びセスキオレイン酸ソルビタン（A と略記）を第 7 表に示す各量使用する他は、実

第 7 表

水分	油分	A	安定性 (6カ月後)	調査箇 テスト	色素法	肌なじ み良い	保湿 効果	オバネバ しない
5.0	4.4	4	不安定	不均一	無染	4	4	5
5.5	4.0	5.8	安定	均一	微染	14	15	15
5.7	3.7	4	・	・	無染	18	17	16
6.0	3.4	4	・	・	・	19	18	17
6.5	2.9	4	・	・	・	20	19	18
7.0	2.4	4	・	・	・	20	19	18
7.5	1.9	4	・	・	・	19	18	18
8.0	1.5	5	・	・	・	18	18	18
9.0	6	5	・	・	微染	15	14	15
9.5	5	5	不安定	不均一	無染	2	5	1

この結果からも明らかなように、水の含有量は 5.5 ~ 9.0 %、好ましくは 5.7 ~ 8.0 % である。

実施例 10

ポリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの代りに、ポリオキシエチレンハルミチエン酸

ジェタノールアミド (5 B.O.)、ポオキシエチレンステアリン酸ジェタノールアミド (5 B.O.)、ポリオキシエチレンラクリン酸モノエタノールアミド (5 B.O.)、ポリオキシエチレンラクリン酸モノイソブロハノールアミド (5 B.O.)、ポリオキシエチレンラクリン酸ジイソブロハノールアミド (5 B.O.)、ポリオキシエチレンベヘニン酸ジェタノールアミド (5 B.O.)、ポリオキシエチレンオレイン酸酸モノエタノールアミド (5 B.O.) を使用する他は実施例 1 と同様に行なった。得られた各クリームは何れも均一な油中水滴型エマルションを形成しており、安定性 6 カ月後も安定で異常が見られなかった。また官能テストの結果も 20 名中 18 人以上が保湿効果、しっとり感、肌なじみが良かつたと答えている。

実施例 11

ポリオキシエチレンラクリン酸ジェタノールアミドの代りに、ポリオキシプロピレンラクリン酸ジェタノールアミド (5 P.O.)、ポリオキシプロピレンオレイン酸ジェタノールアミド (4 P.O.)

ポリオキシプロピレンベヘニン酸ジェタノールアミド (6 P.O.)、ポリオキシエチレン (5 B.O.)、ポリオキシプロピレン (2 E.O.) ラクリン酸ジェタノールアミド、ポリオキシエチレン (5 B.O.) 一ポリオキシプロピレン (4 P.O.) 一オレイン酸モノエタノールアミド、ポリオキシエチレン (5 B.O.) 一ポリオキシプロピレン (5 P.O.) 一ベヘニン酸ジェタノールアミド、ポリオキシエチレン (2 E.O.) 一ポリオキシプロピレン (2 P.O.) 一ラクリン酸ジイソブロハノールアミド、ポリオキシエチレン (5 B.O.) 一ポリオキシプロピレンラクリン酸モノイソブロハノールアミドポリオキシエチレン (5 B.O.) 一ポリオキシプロピレンオレイン酸ジェタノールアミドを使用する他は実施例 1 と同様に行なった。

得られた各クリームは実施例 1 のクリームと同様な均一な W/O 型エマルジョンで 6 カ月後も安定で異常が見られなかった。また官能テストも 20 名中 18 人以上が保湿効果、しっとり感、肌なじみが良いと答えている。

